



第46回 アカデミック・ジャパニーズ・ グループ研究会（関西）



日本語教育学研究における 質的データ分析法の意義と課題

日本語教育学領域において質的データ分析法への関心は、近年、本格的に高まり、分析法を紹介した書籍の出版もなされるようになりました。一方で、当該データ分析法が、日本語教育研究においてどのような意味をもつのかについては、それほど議論が進んでいません。そこで、第46回研究会では、日本語教育でも多く実施されるようになった質的データ分析法として、TEA、会話分析、ライフストーリー、M-GTAを取り上げます。日本語教育に軸足をもつ研究者が、その質的データ分析法を用いて研究を実施することの意義について、実際に研究を実施した体験談を踏まえて議論します。

登壇者： 北出慶子氏（立命館大学）・山本真理氏（関西学院大学）
三代純平氏（武蔵野美術大学）・牛窪隆太氏（関西学院大学）

日時： 2018年10月27日（土）14:00-17:30

場所： 関西学院大学大阪梅田キャンパス（K.Gハブスクエア大阪）1004教室

参加費： 会員（無料）・非会員（1000円）

※申し込み方法等、詳細は後日 AJG 研究会 HP、会員 ML にてお知らせします。

第46回研究会担当幹事：牛窪隆太、小森万里、寅丸真澄、内藤真理子、三代純平、村上康代、脇田里子
お問い合わせ先： ushikubo@kwansei.ac.jp（牛窪隆太）